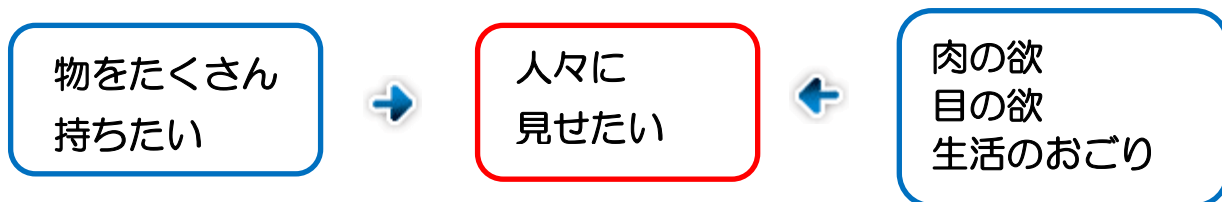


セコ SECOの靈性について No.2

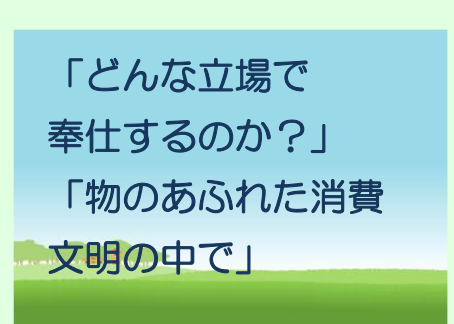
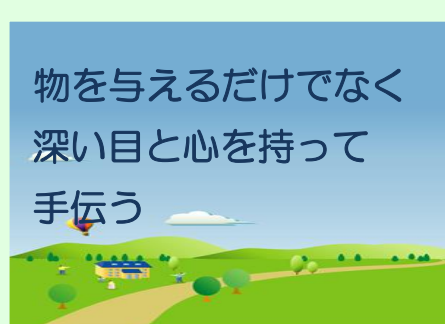
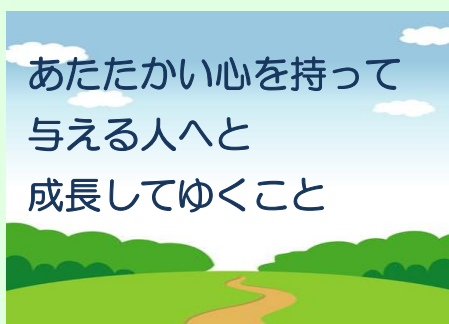
すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父^{おんちち}から出ないで、世から出るからである。(ヨハネの第一の手紙 2章 16)

神様は、世にあるものを全てよいものとして造られた。しかし、人間に自由をお与えになった。人間は自由の使い方をまちがった。



「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、とりわけ、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみである。真に人間的な事柄で、キリストの弟子たちの心の中に反響を呼び起さないようなものは一つもない。」 (第二バチカン公会議 現代世界憲章 1)

今から46年位前の『第二バチカン公会議 現代世界憲章 1』のテキストを、上記に引用して書いたが、わたし達の心の中に反響するそれは、何か無関心でなくて、その様な温かい心の持ち主で奉仕したい。そうしてその様な心の成長した人また自分の立場から与える人になりたい。



少ない物で生活する喜び

父の鞆

わたし自身のいつも思い出す気に入った例である。スペインでわたしは子供の時、父は高等学校の先生であった。教えていたのは、英語、フランス語。家でも教えていたけれど、面白いと今でも懐かしく覚えていることは、父は一生同じ鞆を使っていたことである。だから子供たちにとって父の鞆は特別の鞆であった。父が仮に五つの鞆を持っていたら、鞆をとってくれと言われても、どれだか解らない。然し一つの鞆だけいつも使っていたから、直ぐ解る。きれいに使っていたから、ボ

ロボロではなかったがその鞆は家の中に生きたものの様に語りかけてくる。

少ない物で生きる喜びの実例である。

カレンダーは沢山ある。家のカレンダーはいつも同じであった。聖母マリア様のご絵みたい。とても神秘的な感じだった。毎年そのご絵の下のところに365枚のカードみたいのを母が糊で貼りつけているみたいだった。うちのは生きているカレンダーだと今でも思っている。これは消費文明ではない。少ないもので喜ぶ。

例えば電気カミソリ。テレビを見ているともっと良いものが出てくる。次々と出てくる。そうしてまだ使えるものを捨ててまた新しい物を買う。これも消費文明。

ダイヤモンドの物語

インドの話である。ある日ある村で、ある人が夕方になって走りながら出てきて、一人の修道士を探していた。そうして巡り会った。村人は言った。「石を下さい。石を下さい。」修道士は「なぜですか。何のことですか。」と聞いた。すると村人は「昨夜夢の中で神様に会った。神様は村の外に行ったら一人の修道士に会うでしょう。そうしたら素晴らしいダイヤモンドを与えて下さるでしょうと告げられた。だからダイヤモンドを下さい。」と言った。修道士は持っていた小さな鞆の中から「これでしょう。」と言って大きな素晴らしいダイヤモンドを取り出して「どうか持って行って下さい。昨夜森の中の道にあったのです。」と言った。そうして村人は喜んで家に持って帰った。「もう金持ちになった。一生心配いらぬ」と思った。然し、夜は心配で、心配で寝られなかった。そうしてとうとう翌日朝早く村人は修道士に会いに行った。「夜通し心配で、心配で寝られなかった。あなたはあんなに簡単にダイヤモンドをくださった。それでわたしは寝られなかった。どうかこんなに簡単に喜んでダイヤモンドをくださるそのあなたの富をください。あなたのその喜んで生きる宝をください。」と言った。人は物質的なものによって生かされるものではなく、精神的、霊的心の豊かさによって喜びに生きるものである。

現代消費文明の分析

贅沢型と人格型・・・贅沢型は肉の欲 目の欲と同じ。

★贅沢型の価値

あなたは何をつくるか。量、技術、方法質問、どう作られるか。どうして手に入れる。

人間との出会い、我とそれ、人を物として使う。利用する。我とそれは、有名なユダヤ系の哲学者の『我と汝』という本から借りた言葉である。人は敵、競う、快楽主義、体は機械、愛はエロス、エゴイストの愛、疑い、孤独、誰も信頼することが出来なくなる。

★人格型の価値

あなたは誰、量よりも質、名前だけでなくあなたの考え、技術より自己奉獻、なぜ、何のために生きる。どんな使命を持っているだろうか。世の人のために何が出来るだろうか。尊敬、分かち合い。快楽主義ではなく愛情、人間の偉大さ、愛はエロスではなくアガペ、与える愛である。わたし達は奉仕する。消費文明の中で生きているから気高い価値観を求める。

以上は、SECOの会員たちにホアン・カトレット神父様 (sj) が講話された中から抜粋したものです。

